

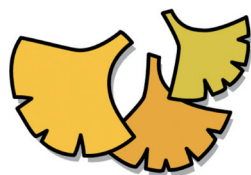
碧南市特別支援教育推進活動委員会だより

執筆 編集 発行
碧南市特別支援教育推進活動委員会
啓発活動部

ささえあい

第56号

碧南市特別支援教育推進委員会では、児童・生徒が将来自立できるよう援助する活動を計画し、推進しています。また、市民のみなさんに特別支援教育を一層理解していただけるよう「ささえあい」を発行しています。今号は、特別支援学級の生徒の様子や昨年度、中学校を卒業した生徒の進路先などを紹介します。



わたしたちの作業学習

西端中学校

西端中学校では、木材加工が作業学習の中心になっています。ここ5年は、主にふみ台を作っています。作業中は、みんな無言で集中して取り組みます。

まず、木材の寸法を測り、のこぎりを使い切断します。紙やすりを使って時間をかけて丁寧に部品加工を行います。平面のところはすべすべになるまで、角は触って痛くないよう丸みをつけます。次に電動ドリルを使って組み立てます。完成後、ぐらつかないよう調整しながら組み立てます。最後にもう一度紙やすりをかけ、脚の裏に滑り止めを貼って完成です。

ふみ台は「そくばい会」の本校の目玉商品です。昨年度は「これを買うのを楽しみに来ました」とお客様に言っていただきました。「そくばい会」に向けて生徒たちみんなで心を込めて作りますので、ぜひ作品を見に来てください。



碧南市特別支援教育講演会

「学校と家庭ができる働くことへの準備について」 ～うちの子から社会の人に～



◎講 師 知多地域障害者就業・生活支援センター
ジョブコーチ 松井通子 先生
◎日 時 平成26年7月20日(日) 午後2時～
◎場 所 碧南市文化会館

碧南市特別支援教育推進活動委員会では、毎年市内の小中学校の保護者・教員・学校関係者の方々に特別支援教育の理解を深めていただくために、講演会を行っています。今年度は障害者就業・生活支援センタージョブコーチ、松井通子先生をお招きし、障害のある子どもが、大人になって社会で働くためにどんな準備が必要かというお話をしていただきました。

「うちの子から社会の人に」という思いを持って支援をすることがすべてのもとになるというお話でした。「特性だから分かってほしいという考えは通用しません。大きくなったら、社会という集団の中で役割を持ち、働くことのできる『社会の人』になれるように支援します。」という話から、小学校のうちにあいさつをする、身だしなみを整える等の「くらしの力」を身につけられるよう支援をしていくことが重要であることが分かりました。これからの子どもたちの支援に生かしていきたいと思ひます。

中学卒業後の進路

【市内中学校特別支援学級生徒の進路】

		25年度	24年度	23年度	22年度	21年度	20年度	19年度	18年度
特別支援学校	安城特別支援学校	3	5	9	9		5	7	1
	半田特別支援学校桃花校舎		1			2		1	
	豊田高等特別支援学校	4	4	2		2	2	1	
職業訓練校				1	2		2		2
専修学校				1	1	1			1
各種学校		1	1	1					
家事従事		1	1						1

平成25年度、碧南市内の特別支援学級を卒業した生徒は9名で、その進路は上の表のとおりです。

進路指導は、早いほどよいと言われています。中学校は、3年間しかありませんので、小学校の段階から、進路について家庭や学校で話し合いをもつことをおすすめします。

特別支援学校の先生のお話によると、高等部から入学してくる生徒は中学部から在籍している生徒と比べ、やや何でもやってもらえると考え傾向があるようです。身のまわりのことは自分でやるという自立した生徒を求めているそうです。また、高等部を卒業すると社会に出るので、あいさつと返事も身につけてほしいそうです。

家庭と中学校が連携して、少しずつ根気よく身につけさせていきたいですね。
西端中学校 啓発係



子どもの健やかな成長発達のために！

～乳幼児健康診査にかかわって思うこと～

発達とは、生まれたばかりの赤ちゃんが、保育園・幼稚園、小学校と、少しずつ大人に近づいていく中で、運動、言葉、社会性など、様々な面で変化していくことを言います。

発達には一定の筋道があります。例えば、生まれたばかりの赤ちゃんが急に歩き出すことはありません。寝返りをする、座る、はいはいをする、などの段階を経てから歩くことができるようになります。同じように、最初から難しい言葉をしゃべる子どももいなければ、最初から大人と同じことができる子どももいません。誰もが少しずつ、発達の階段を上っていきます。

成長発達の基盤の一つとして、乳幼児期には、親子の信頼関係があります。抱きかかえられたり、優しくあやしてもらったりするなど、親に愛されているという体験をたくさんすることが必要です。『自分は愛されている』と実感できると、心が安定し、人との関係のつくり方の基礎を形成します。次に、叱るよりも褒めてあげてください。実は褒めることは、“存在や意欲、努力や頑張りを認める”ことにつながります。何もできない状態から物を持つ、歩く、話す……と、子どもは十分頑張っています。“頑張ろうとする意欲、小さな前進”も褒め、子どもを認めてあげましょう。

しかし、子どもの成長発達には個人差があります。成長発達の違いは、その子の性格、体や心の病気や障害の有無などに加え、家族構成、環境など、様々な要因が関係していることもあります。また、一人の子どもの中で、身体・心理・言語などの発達がアンバランスなことがあります。具体的には、運動面の発達が良いのに、言葉の発達が遅れがちだったり、逆におしゃべりは得意だけど、不器用さが目立ったり、などのことです。このアンバランスは、得意と不得意の範疇に収まることもあれば、いわゆる発達障害と診断されるような場合もあります。

適切（必要）な時期に適切な対応をしてあげることで、成長発達を助け、保護者の負担も少なくなります。成長発達、かかわり方の振りかえりの場として、乳幼児健診を受けていただき、一緒に子どもの成長発達を見守っていきましょう。

健康課 母子保健係

